

第 11 回 供用期間中検査検討会 議事録

1. 開催日時 : 平成18年 2月 8日(水) 13:30~15:50
2. 開催場所 (社)日本電気協会 4階D会議室
3. 参加者 (順不同, 敬称略)
- 出席者: 石沢主査(東京電力), 野村副主査(関西電力), 小田倉(日立), 小林(中国電力), 佐々木(日立), 佐藤(発電技研), 高柳(東京電力), 原田(原子力エンジニアリング), 藤澤(原子力安全・保安院), 三原田(JNES), 溝淵(四国電力)
(計11名)
 - 代理出席者: 柴山(MHI・斎藤代理), 松田(IHI・東海林代理), 島(北陸電力・西田代理), 羽田(GEII・二瓶代理), 窪田(電源開発・枘代理), 原田(九州電力・馬田代理), 稲垣(中部電力・松田代理)
(計7名)
 - 欠席者: 加藤(JSNDI), 清水(東北電力), 笹田(北海道電力), 成瀬(東芝), 新田(富士電機), 羽田(丸紅), 師尾(日本原電), 綿谷(WH)
(計8名)
 - 常時参加者: 岡田(パブコック日立) (計1名)
 - オブザーバ: 笹原(電中研), 米山(発電技研), 宮澤(産報出版) (計3名)
 - 事務局: 福原, 長谷川(日本電気協会) (計2名)

4. 配付資料

- 資料 No.11-1 第10回供用期間中検査検討会 議事録(案)
- 資料 No.11-2 今後の JEAG4207 改定関連予定(案)
- 資料 No.11-3 JEAG4207-200X 改定方針(案)
- 資料 No.11-4 JEAG4207 と NDIS0603 との関連に対する質問回答(案)
- 資料 No.11-5 SG 以外の渦流探傷試験の規格化対応(案)

5. 議事

(1) 委員変更承認と委員出席者数の確認

事務局より、本検討会委員総数26名に対して代理を含めた本日の委員出席者数は18名で、「委員総数の3分の2以上の出席」という決議のための条件を満たしていることの報告があった。

(2) 前回議事録(案)の確認

資料 No.11-1 前回議事録(案)について、特にコメントなく了承された。

(3) 今後の JEAG4207 改定関連スケジュールについて

高柳委員より、資料 No.11-2 に基づき、前回検討会の議論を踏まえて検討会におけるアク

ションアイテムと各項目における至近の活動時期を整理した内容の紹介があり、これに基づき中長期も含めて活動計画に関する議論が行われ、以下の方針で活動計画を整理することで了承された。今後、構造分科会に提示する様式に本日の審議内容を整理し、電子メールにより検討会委員の確認を得る予定。

【活動方針】

a. 平成 18 年度以降、JEAG4207 改定実施

JNES における SGF 関連報告内容の反映検討を行う。

新たに創設された PD 制度と JEAG との関係については、当面、現在寄せられている質疑応答で対応し、JEAG 改定の際に質疑応答の内容を取り込む。

現行 JEAG の現場での活用上の解釈や問題点を抽出し、必要なフォローを行う。(アンケート実施を予定)

b. 次期 PD 規格策定検討は長期的課題との位置付け

H18.3 月からの制度運用開始状況を注視し、現行 NDIS のうち Supplement の新規アイテムと目される異種金属継手部、炭素鋼欠陥サイジング等の電気協会規格としての成立性を含めた検討を行う。

c. JEAC4205-2000 の今後の扱い

: 今年度活動計画と同様、事業者における規格活用が終了した時点で、終了とする。

なお、メンテナンスについては特に行わないものとする。

(4) JEAG4207-200X 改定方針について

松田氏(東海林委員代理)より、資料 No.11-3 に基づき、前項でスケジュールの紹介があった JEAG4207-200X 改定方針詳細として、前項活動方針における(a.平成 18 年度以降の JEAG4207 改定)の項目概要、文案イメージ、並びに JEAG4207 ユーザーに対するアンケート文案が提案された。

議論の結果、JEAG4207 改定の項目概要、文案イメージについては、特に意見なく、今後順次検討作業を進めることとなった。

また、アンケート文案についてはアンケート回答者の所属記載欄の削除修正のほかに、今後 2 週間のコメント募集期間を設定することとなった。なお、具体的なアンケート依頼は、検討会委員の所属団体を中心に関連する検査会社等に各委員からアンケートをお願いすることとなった。

(5) JEAG4207-2004 と NDIS0603 との関連に対する質問回答(案)について

資料 No.11-4 に基づき、松田氏(東海林委員代理)より前回検討会承認された題記 Q&A について、以下のとおり NDIS0603 を欠陥評価の保守性と十分な精度を有すると認める理由の一部補足提案があり、決議の結果、提案どおり了承された。次回構造分科会に提案する予定。

[質問]

日本非破壊検査協会規格 NDIS0603:2005「超音波探傷試験システムの性能実証における技術者の資格及び認証」の付属書によって認証された超音波探傷試験技術者、探傷装置および

び手順書を用いる場合には、JEAG4207-2004 の付録 A-1100 項による「欠陥評価の保守性を考慮して十分な制度を有すると認められた方法」として良いのか？

[回答]

NDIS0603:2005 の付属書は、超音波探傷試験技術者、探傷装置および手順書を一括とした超音波探傷試験システムの認証であり、実証的にその測定方法を確認しているものである。試験の合否基準においては、指定された測定対象に対して全て測定可能である他に、十分な保守性(過小評価のないこと)および十分な精度(一般的な UT による計測精度の範囲内にあること)を実証的に確認しているものである。

また認証の有効期間は 1 年とされており、技量の維持も確認できる。

よって、NDIS0603:2005 によりその認証された範囲においては、JEAG4207-2004 の付録 A-1100 項による「欠陥評価の保守性を考慮して十分な制度を有すると認められた方法」と考
えることができる。

この場合には、JEAG4207-2004 の付録によらずに欠陥深さ寸法測定を行うことができる。

(6) SG 以外の過流探傷試験の規格化方針 (案) について

資料 No.11-5 に基づき、高柳委員より、SG 以外の過流探傷試験の規格化アンケート結果に関する前回議論を受けて、最終的な回答文案が提案された。

議論の結果、規格化は当面見送りとし、上置法として現在 JNES で行われている NNW などの研究成果を踏まえて改めて規格化検討を行うことで、全員の了承が得られた。次回構造分科会に提案する予定。

(7)

1) PD 制度に関する動向について、笹原氏より以下の紹介があった。

- 試験機関 (電中研)、トレーニングセンタ機関 (発電技検・電子科学研究所) とも認証機関である NDIS に仮認証された。
- 至近の予定は ~ 2/17 受験募集、試験は各 5 日間で 3 月 ~ 4 月で計 3 回実施予定 (3/6 ~、3/13 ~、4/3 ~)
- 電中研では、認証試験実施に伴い生ずる質問等は QA として公開を検討している。規格化検討のアイテムとしても活用してほしい。
- 以前の JEAG4207 改定議論の中で、標準要領相当追加との意見があったが、米国では認証された要領の機器リストに掲載された探傷装置・探触子は、それを用いた認証実績があれば以降はパスされるなど、標準要領が効率的な運用に大きく貢献している。日本でも検討要。

2) 次回開催

次回検討会は平成 18 年 4 月 19 日 (水) に開催する予定。

以 上